

環境にやさしい街から健全な地域コミュニティの再生へ

1. 便利さを少し手放してみる。

(1) はじめに

近年の都市周辺の街をとりまく環境問題として、外側の環境ではヒートアイランドの深刻化やゲリラ豪雨による水害の頻発があげられます。

一方、内側の環境である人の心に関しては、地域コミュニティの希薄化等に伴う独居老人の孤独化、育児に悩む親の増加、いじめなどの子供の問題行動の増加、無目的な犯罪の増加等があげられます。

こうしたことから、これらの問題があまり見られなかった江戸時代から昭和 30 代前半までの日本を参考に、環境にやさしく、地域コミュニティが活性化する街づくりについて考えてみました。

(2) 解決策の考え方（引き算で考える）

例えば、ヒートアイランド対策や子供のコミュニケーション能力対策は、通常、以下のような方法が考えられます。

ヒートアイランドの緩和 → 保水性舗装の整備、屋上緑化・壁面緑化等の推進
子供のコミュニケーション能力の向上 → クラブ活動や習い事をさせる。総合学習の推進。

効果はあがりそうですが、何となく、専門化、高度化、複雑化している印象があります。もう少し、簡単で楽な方法は無いか考えてみました。

大抵、足し算で解決策を考えると、専門化、高度化する傾向があるため、引き算で考えることにしました。

新たな技術や手法を付け加えるのではなく、今あるものを手放してみる。

こうすると、どうなるか考えてみました。

(3) 便利さを少し手放してみる

皆が同じようにある便利さを手放してみます。

例えば、自分達の住む街の中で自動車を進入禁止にしてみます。

(4) どのような街が生まれるか想像してみましよう。

自動車の進入禁止の街です。

どんな街になるか想像してみましよう。

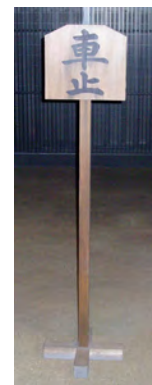


写真-1 車止の標識

2. こんなメリットがあります。

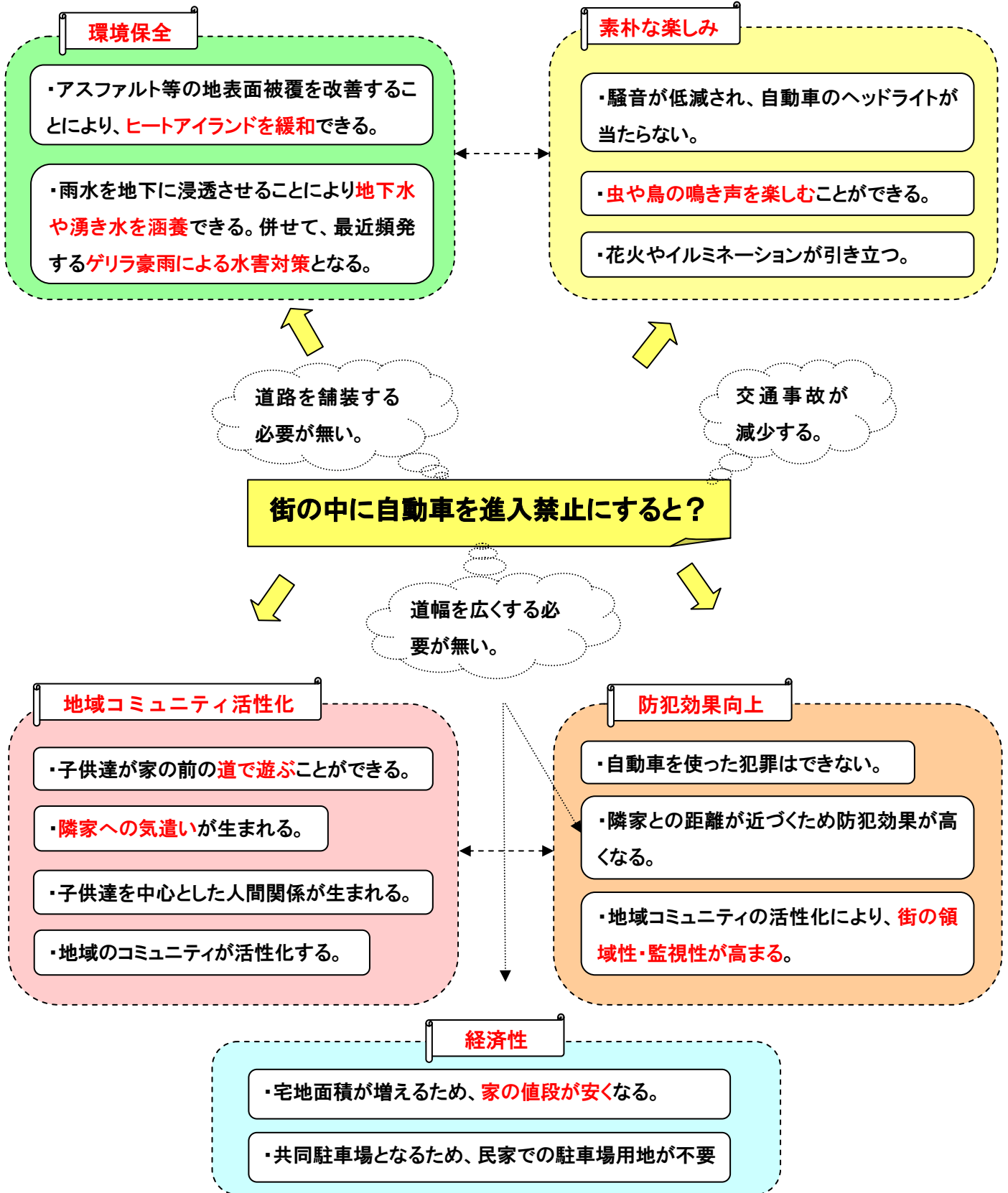


図-1 様々なメリット

3. デメリットから生まれてくるものもあります。

街の中に自動車を進入禁止にすると？

デメリット

・車を持っている人は共同駐車場まで歩く必要がある。

・郵便や宅配便の車が街に入れない。

・子供達が道で遊ぶため、時には騒がしい。

緩和策

・個人差はあるが、250m程度（3～4分）の歩行は我慢できると思われるため、**住居から共同駐車場までの距離を最大250m**とする。
・共同駐車場に**ショッピングカート**を設置し、共同利用する。

・約半日～1日到着が遅れるが、街の管理事務所で一旦集約してから、**電動自転車やペロタクシー***で配達する。
・道の幅は最大で約1.5車線とし、緊急自動車や工事用車両は入れるようにする。

・道で子供が騒いでも、**それほど気にならない人に住んでもらう。**
・限度を超える場合は、子供をきちんとしかるようにする。（地域で子供を育てる）

同じような考え方をもった人が住むこと、さらに共通の規範を守ることにより、**共同体意識が醸成**される。

※：ペロタクシーは、屋根付き、電動アシスト付きの3輪自転車で、動く広告媒体としても活用される。

図-2 デメリットから生まれてくるもの



写真-2 ショッピングカートの共同利用



写真-3 ペロタクシーでの配達

4. 街全体はこんな感じです。

(1) 街の概要は？

街の概要は、表-1のとおりです。

ヒートアイランドの緩和やコンパクトで歩いて暮らせる街づくりを勘案して、中心市街地に比較的近い地域で考えてみました。

表-1 街の概要

街の広さ	500m×500m程度
街の位置	中心市街化及びその周辺地域
地目	宅地
用途地域	低層住居専用地域
区画面積	10坪～150坪（一人暮らしから2世帯、3世帯住宅まで、他に分譲の低層アパートあり）

(2) 街の中は？

街全体のイメージは、図-3に示すとおりです。

共同駐車場まで長い距離を歩くのが嫌な人は利便性重視地区、歩くのが苦にならない人は、環境重視地区に住みます。共同駐車場から住居までの最大距離は250mです。

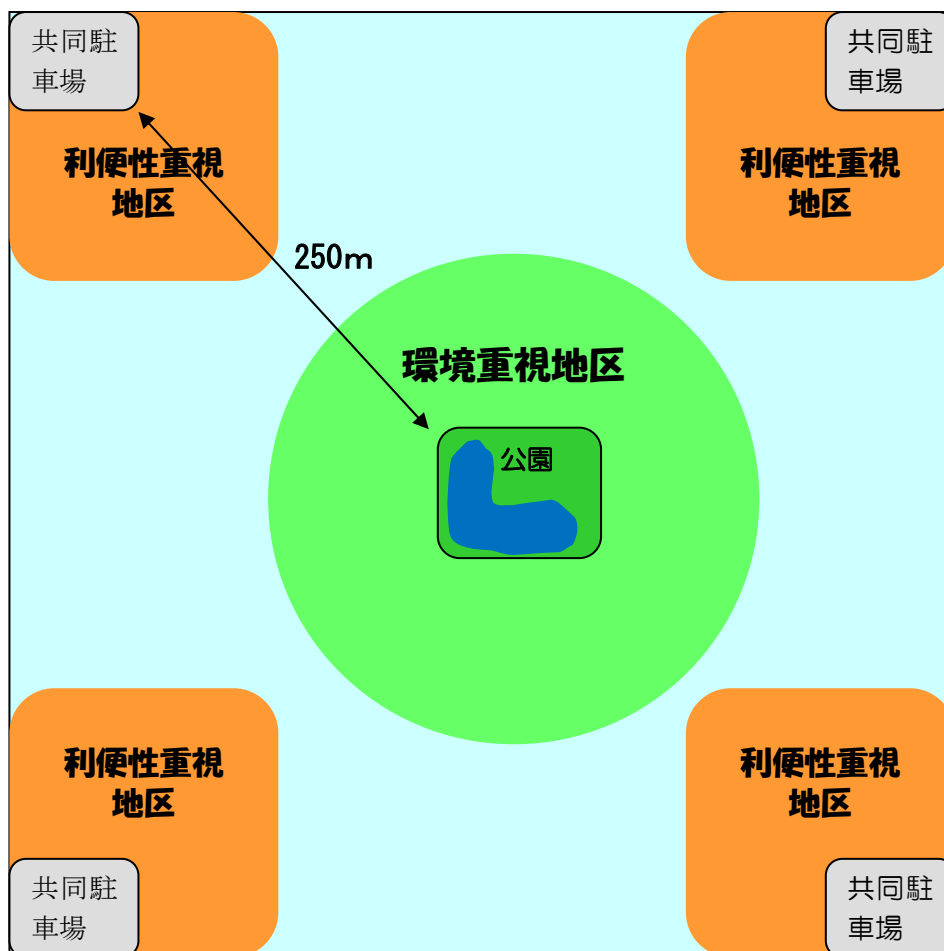


図-3 街のイメージ図

5. 終わりに

街の人々が共通の規範（街の中では自動車を使用しない）を守ることにより、どのようなメリットが生まれ、どのような街ができるかを考えてみましたが、様々なメリットの中でも私が特に重要と考える地域コミュニティ（地域共同体）の再生について、最後にコメントします。

（1）地域コミュニティ（地域共同体）再生の重要性

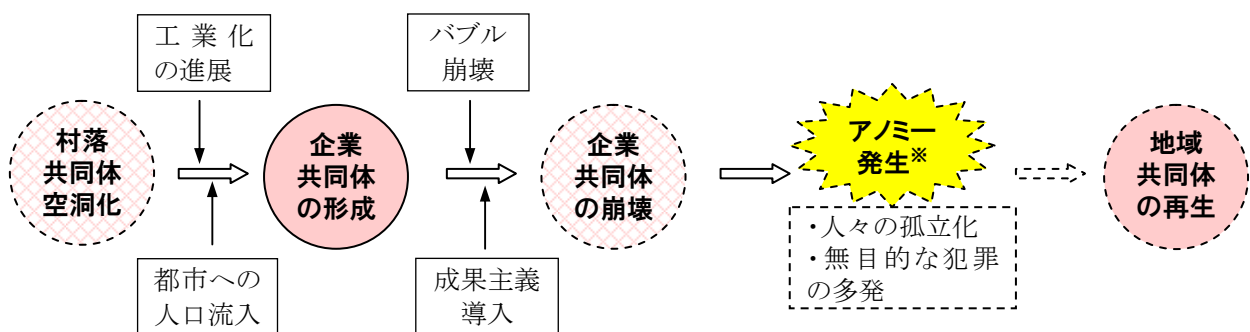
地域共同体は、地域の治安維持や衛生対策などの社会的機能だけでなく、その共同体のメンバーに対する精神的安定剤の役割も果たします。

人間の精神状態は、地域や家族との連帯（つながり）があって始めて安定するようです。

しかしながら、最近では、地域共同体や企業共同体は崩壊の危機にあり、「地域のきずなの希薄化」や「職場の人間関係の希薄化」を感じる人が増えてきています。

こうした、つながりの希薄化が、規範意識の低下を生み出し、近頃の様々な無目的な犯罪の遠因になっているとも考えられます。

人々の新たな連帯（つながり）の受け皿を作ることが、メンバーの精神的安定に寄与すると思われるため、健全な地域共同体を再生していくことが強く求められています。



※：アノミーとは、人々の行動を規制していた社会的規範が失われて、無連帯となっている社会の状態。無連帯となると、人々は身の置き場がなくなってしまい、混乱の極に達する。

図-4 共同体の変遷

（2）今後の街づくりに向けて

今後の日本の街づくりは、人口減少、高齢化の進展、公共投資費用の軽減などを受けてコンパクトな街づくりが大きなトレンドとなっていくことが予想されます。

コンパクトな街づくりのメリットとしては、省エネルギー、中心市街地の活性化、高齢者などの交通弱者対策があげられますが、これらに加えて、住んでいて楽しく、つながりを感じる街、すなわち「帰属意識が生まれる街づくり」を進めることが必要です。

街の機能のみにこだわらず、地域コミュニティの活性化につながる様々な工夫やアイデアにより、街や人に対する愛着を生み出す仕組みや仕掛けを考えていくことがより重要であると考えます。

以上